

# 創業10周年記念イベント開催

## 生成AIの最新事例・展望を解説

### シフトテクノロジー

シフトテクノロジーは10月2日、東京都千代田区のコムファレンススクエアエムプラスで創業10周年記念イベント「保険AIの最新事例と展望」を開催した。マッキンゼー・アンド・カンパニーのパートナーで日本の金融サービス研究グループのリーダーを務める竹村和昭氏と同社アソシエイトパートナーの福元允亮氏が基調講演を行ったほか、シフトテクノロジーCEO兼共同創業者のジェレミー・ジャウィッシュ氏が生成AIの最新事例を共有した。当日は多数の業界関係者が参加した。

セミナーではまず、シフトテクノロジーの日本法人であるシフトテクノロジージャパンでカントリーマネジックディレクターを務める藤井達司氏が、シフトテクノロジーの歩みや日本市場における今後の戦略などを紹介した。

また、グローバルでは顧客基盤を確立した欧州に加え北米での展開を急拡大しており、日本においても「国内の実績をベースに日本の保険会社では、フランスの企業家だけでなく日本の企業家も支援している」と説明した。

さらに、生成AI・AIを活用して「AIと従来型AIを組み合わせて大きなインパクトを生み出し、今後AIの組み合わせによって成果を最大化できるかが競争優位性の確保につながる」と強調した。

## 日本の保険会社のユースケースも紹介

専門知識を持った200人以上のデータサイエンティストを擁し、生成AIを含む最先端のテクノロジーを活用して100パーセント保険業界に特化したサービスを提供している同社は、創業以来10年にわたり保険会社の意思決定力強化を支援している。藤井は、保険金不正請求検知からスタートした同社のソリューションについて、保険金請求処理の自動化や引受リスクの検知、金融犯罪

続いて、在日フランス大使館経済部の出向者として経済産業省イノベーション創出新規事業推進課に所属し国際連携・イノベーション・専門職員を担当するとともに「フレンテック」東京のボイドメンバールを務めるピエール・ブジェル氏が、多くのユニコーン企業を生み出しているフランスのスタートアップエコシステムおよびフランス政府による代表的なスタートアップ支援プロジェクトの紹介。同プロジェクトの日本拠点である「フレンテック東京」では、フランスの企業家だけでなく日本の企業家も支援している」と説明した。

また、生成AI・AI

次に、竹村氏と福元氏が「生成AI/AIによって拓かれる保険の未来」と題し基調講演を行った。

まず竹村氏が、生成AIおよびAIが保険業界に与えるインパクトについて説明し、生成AIが全世界の保険業界に500〜700億のインパクトを与えることが予想される中、先行して生成AI・AIを活用している欧米の企業では生成AIと従来型AIを組み合わせて大きなインパクトを生み出し、今後AIの組み合わせによって成果を最大化できるかが競争優位性の確保につながる」と強調した。

最後に、シフトテクノロジージャパンでチーフデータサイエンティストを務めるブルノ・ラコ氏が「保険生成AIの最新事例と展望」と題して講演した。



藤井氏



ブジェル氏



竹村氏



福元氏



ジャウィッシュ氏



ラコ氏

を活用している企業はエンドツーエンドの業務ドメインを変革する前提でユースケースを考えているとし、生成AIと従来型AIを組み合わせるAIエージェント技術の誕生によって、両AIを組み合わせたユースケースの実現は加速していく見込みだと述べた。

続いて福元氏が、生成AI・AIを活用した保険金支払の将来像について解説。グローバルの保険会社は、生成AIおよびAIの活用においては保険のバリューチェーン

の中でも保険金支払い業務でのコスト削減インパクトが特に大きいと考えており、両AIの活用によって、保険金支払いにおける「予防の強化」「AI中心のオペレーション」「損害調査の正確性向上」が加速することを見据えていると説明した。

これらを実現させるには、経営陣から現場まで一貫通貫の包括的なプランと実行が必要であり、外部パートナーの力も借りながらAIエージェントのような最新技術を理解・適用することが競争力の確保につながる」と強調した。

次に、ジャウィッシュ氏が「AIと保険の未来」をテーマに記念講演を行った。はじめに保険業界向けAIの進化について触れ、生成AIは汎用型から個別焦点型のモデルへ、ポイントではなくエンドツーエンドの業務プロセスをサポートするソリューションへと変わりつつあり、複雑な業務プロセスを自動化するだけでなく、意思決定の検証を行うなど人間と同等の役割も果たすようになる可能性がある」と述べた。

また、世界および日本の保険会社で導入されている同社の生成AIソリューションについて、請求自動化、代位求償、不正検知などのユースケースにおける機能とバリュー

最後に、シフトテクノロジージャパンでチーフデータサイエンティストを務めるブルノ・ラコ氏が「保険生成AIの最新事例と展望」と題して講演した。

ラコ氏は、生成AI技術の現状や同社の対応について触れた後、日本の生成AI活用のユースケースとして、文字からデータを抽出してデータの意味を理解するインテリジェントドキュメント処理(IDP)の改善例を紹介し、生成AIはさまざまな様式の文書を教師データなしに理解することが可能なため、教師データが得られない場合や特定のモデルの訓練に時間をかけたくない場合などに非常に有益だと述べた。